

F U S O R E P O R T



第63期 中間報告書

2019年4月1日から2019年9月30日まで

扶桑化学工業株式会社

証券コード 4368



トップインタビュー (Q&A)

1. 当第2四半期の業績についてお聞かせください。

生産能力増強のための大型投資が完成し、投資に伴う償却費の負担が始まりましたが、当第2四半期の連結累計期間の償却前営業利益は過去最高の64億3千2百万円を達成しました。

一方、売上高は、市況や為替等の影響を受け203億3千3百万円(前年同期比4.6%減、9億7千7百万円減)となりました。営業利益は売上の減少、減価償却費等のコストアップの影響で43億6千4百万円(同16.8%減、8億7千8百万円減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、30億1千3百万円(同22.4%減、8億7千万円減)となりました。売上・利益ともに、前年同期の数字を下回る結果となりましたが、当第2四半期の利益は年度計画を上回る実績で推移しています。

2. 半導体市場を取り巻く環境の変化は見られますか？

ここ数年間非常に高い成長率で拡大してきた半導体市場ですが、スマートフォン市場の成長鈍化や、米中貿易戦争などの影響もあり、昨年の後半から調整局面に入っております。

当社主力品「超高純度コロイダルシリカ」もその影響を受けておりましたが、ようやく回復の兆しが見えてきました。中期的には5G(第5世代移動通信システム)、自動運転化技術などの実用化も近づいてきており、「CASE*」での応用も模索され、半導体需要はますます強くなると考えられます。

*CASE: Connected(コネクティッド)、Autonomous/Automated(自動化)、Shared(シェアリング)、Electric(電動化)の頭文字をとったもの。

株主の皆さまには平素より格別なご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。



代表取締役会長
藤岡 実佐子

代表取締役社長
中野 佳信

Q3. リンゴ酸の新工場が完成しましたが、今後の販売戦略を聞かせてもらえますか？

リンゴ酸をはじめとする、果実酸の世界市場は年率数%、アジア地域ではそれ以上の成長が見込めるとみています。高品質で安全・安心な製品を競争力のある価格で提供し続けていくことを武器に、特にアジア地域での当社製品のプレゼンスを今後高めていくことになります。

また、出来るだけ早く新工場の稼働率を高めながら、生産能力の一部は、高付加価値品、リンゴ酸の派生製品、応用開発製品、食品製剤にシフトしてまいります。

Q4. 社長就任後1年半になりますが、これまで特に意識して取り組まれたことについてお聞かせ頂けますか？

当社の強みが受け継がれ、世界に通用するような企業になるために、社内の意識改革を進めています。特に、国内志向の強かった販売・生産・研究開発全般において、世界という大きな舞台を視野に入れて、日々の業務に取り組んでもらっています。

意欲のある若手には、さまざまな新しいことにチャレンジしてもらい、将来を担う人財づくりに、特に力をいれています。長期にわたり成長可能な新しいビジネス基盤を早期に構築し、若い世代にバトンタッチできるよう、国内外でのチャンスを探しに東奔西走しています。

Q5. 新設された部署についてお聞かせください。

4月に「イノベーション推進室」と「企画開発室」を新設しました。



「イノベーション推進室」は、長期的視点にたち、持続可能な開発目標 (SDGs) を意識しながら、構造改革を推し進めています。今年度は特に情報管理体制の強化を推進しています。

一方、「企画開発室」においては、中長期戦略等の立案・推進、および新規事業創出の体制強化に取り組んでおり、ライフサイエンス事業・電子材料事業に続く第3の柱となる事業に果敢に挑戦できるように、社内各部門の精鋭を集めて設立しました。早期に、なにがしかを柱上に載せたいと考えています。

Q6. 中野社長から、株主の皆様へメッセージをお願いします。

2019年度の当社の業績は、当初計画に対しこれまで順調に進捗しております。また、両事業部門で数年にわたって進められていた大型投資も、全てが完了しました。

このため、減価償却費等の計上により、利益水準は前年割れが続きますが、今後は拡張した生産能力を活かしての販売増を目指してまいります。

引き続き、盤石な経営体制の構築とさまざまな取り組みを行い、着実な売上高・利益成長を遂げ続けることで、株主の皆様のご期待にお応えしていきたいと考えております。

株主の皆様には、今後もより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



事業概況

60.6%
123億2千8百万円

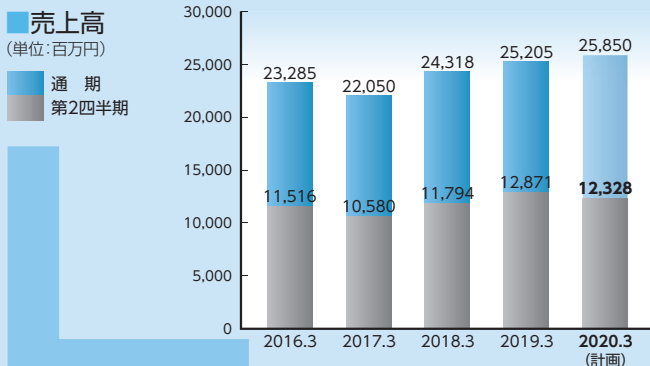
売上高の
比率
(連結)

39.4%
80億4百万円

ライフサイエンス事業

ライフサイエンス事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が123億2千8百万円(前年同期比4.2%減、5億4千3百万円減)、営業利益は23億5千9百万円(同45.4%増、7億3千6百万円増)となりました。

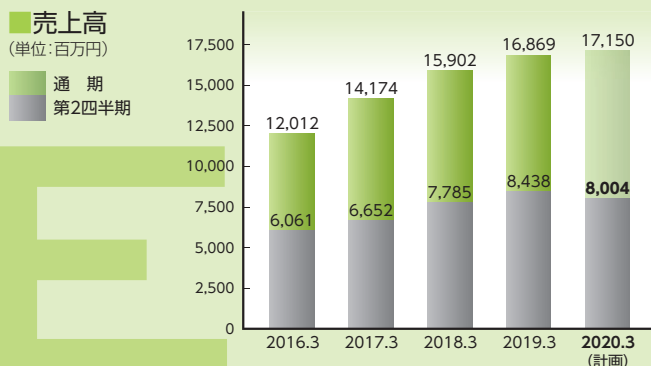
原料価格に連動して販売価格が変動する契約となっている製品の販売単価が下がったこと、円高により海外子会社の売上高に影響を与えたこと、そして天候不良による飲料用途向け製商品の伸び悩み等により、売上高は前四半期連結累計期間を下回りました。営業利益は継続的な価格改定により販売価格の適正化が進展したこと、海外子会社の業績が堅調に推移したこと、原料価格の低下、そして円高による輸入価格の低下等により、前四半期連結累計期間を上回り、減収増益となりました。



電子材料および機能性化学品事業

電子材料および機能性化学品事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が80億4百万円(前年同期比5.1%減、4億3千3百万円減)、営業利益は26億1千4百万円(同38.1%減、16億9百万円減)となりました。

ナノパウダー等の半導体研磨分野以外に使用される製品の販売は引き続き堅調に推移したものの、半導体市場停滞の影響が大きく、売上高は前四半期連結累計期間を下回りました。営業利益は、設備投資に伴う減価償却費の増加、増産体制確立のための要員確保による人件費の増加、売上高の減少による影響等により、前四半期連結累計期間を下回り、減収減益となりました。



Fuso News 1

リンゴ酸新工場完成(鹿島事業所)



2019年7月、鹿島事業所(茨城県神栖市)において、当社ライフサイエンス事業部の戦略品であるリンゴ酸の製造設備の竣工式が催されました。

大阪工場(大阪府堺市)に続く国内2つ目のリンゴ酸設備で、当社の有する生産能力は世界最大規模となり、最新鋭の設備では無水マレイン酸を原料としリンゴ酸の一貫生産をさらに効率的に行っています。

アジア地区では人口拡大に伴う需要増に加え、食品用途を中心に安全で安心、品質の高い製品が求められており、当社リンゴ酸やその他の果実酸を使用していただく機会が、益々増えていくことが予想されております。これら需要増に応えるための準備が整いました。



Fuso News 2

環境負荷を減らすためにLED化を推進中

企業の社会的責任を認識し、環境保護と大気汚染の予防に努める当社では、現在事務所照明のLED化を積極的に進めており、2019年8月には東京本社で使用されている汎用蛍光灯の約82%をLED照明に切り替える工事を実施しました。特に、業務時間内に常時点灯させるエリアについては、その全てをLED化しました。

今回の東京本社照明器具のLED化により、これまでの汎用蛍光灯使用時に比べて約60%のCO₂削減効果を見込んでいます。また、蛍光灯と異なり、向こう10年程度電灯交

換も無くなるので、廃棄物の削減にも寄与できる上、職場も一段と明るくなり、職場環境の改善にも役立っています。





連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2019年9月30日)	前連結会計 年度末 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産	32,793	30,668
現金及び預金	13,684	10,864
受取手形及び売掛金	10,503	10,885
商品及び製品	6,262	6,399
仕掛品	354	297
原材料及び貯蔵品	1,295	1,354
その他	692	867
固定資産	34,225	33,788
有形固定資産	29,973	29,444
建物及び構築物(純額)	8,627	8,311
機械装置及び運搬具(純額)	8,222	7,736
土地	6,889	6,892
建設仮勘定	5,874	6,101
その他(純額)	358	403
無形固定資産	2,393	2,390
投資その他の資産	1,859	1,952
投資有価証券	885	929
長期前払費用	84	133
繰延税金資産	653	648
その他	235	240
資産合計	67,018	64,457

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2019年9月30日)	前連結会計 年度末 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債	8,188	7,298
支払手形及び買掛金	1,966	1,895
未払金	3,889	3,272
未払法人税等	1,174	952
その他	1,157	1,178
固定負債	1,761	1,815
繰延税金負債	60	61
退職給付に係る負債	1,597	1,652
その他	103	102
負債合計	9,949	9,114
純資産の部		
株主資本	55,920	53,724
資本金	4,334	4,334
資本剰余金	4,820	4,820
利益剰余金	46,770	44,573
自己株式	△4	△4
その他の包括利益累計額	1,148	1,618
純資産合計	57,069	55,342
負債純資産合計	67,018	64,457

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2019年4月 1日から 2019年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2018年4月 1日から 2018年9月30日まで)
売上高	20,333	21,310
売上原価	12,760	12,586
売上総利益	7,572	8,724
販売費及び一般管理費	3,207	3,480
営業利益	4,364	5,243
営業外収益	76	386
営業外費用	37	6
経常利益	4,403	5,623
特別利益	57	14
特別損失	104	13
税金等調整前四半期純利益	4,356	5,623
法人税等	1,343	1,739
四半期純利益	3,013	3,883
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,013	3,883

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2019年4月 1日から 2019年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2018年4月 1日から 2018年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,915	3,465
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,729	△4,375
財務活動によるキャッシュ・フロー	△820	△820
現金及び現金同等物に係る換算差額	△150	241
現金及び現金同等物の増減額	3,215	△1,489
現金及び現金同等物の期首残高	10,223	18,930
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,439	17,441

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

Point 1

(連結貸借対照表)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ25億6千1百万円増加し、670億1千8百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ8億3千4百万円増加し、99億4千9百万円となりました。これは主に、未払金および未払法人税等の増加によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ17億2千6百万円増加し、570億6千9百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものです。

Point 2

(連結損益計算書)

当第2四半期連結累計期間においての連結業績につきましては、半導体市場の調整局面が続き、超高純度コロイダルシリカの販売が前第2四半期連結累計期間の実績を下回りました。一方、果実酸の販売は国内外ともに、総じて順調に推移しました。

仕入れ価格や原材料価格の低下が、利益を押し上げましたが、償却費増の影響が大きく、営業利益・四半期純利益とともに前第2四半期連結累計期間の実績を下回りました。

Point 3

(連結キャッシュ・フロー計算書)

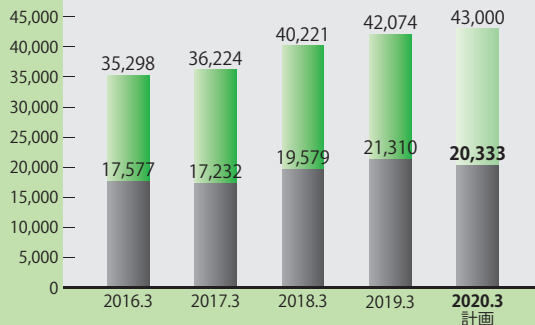
当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、税金等調整前四半期純利益および減価償却費の発生により取得した資金を、有形固定資産の取得、法人税等の支払、配当金の支払に充てた結果、前連結会計年度末に比べ32億1千5百万円増加し、134億3千9百万円となりました。



業績ハイライト(連結)

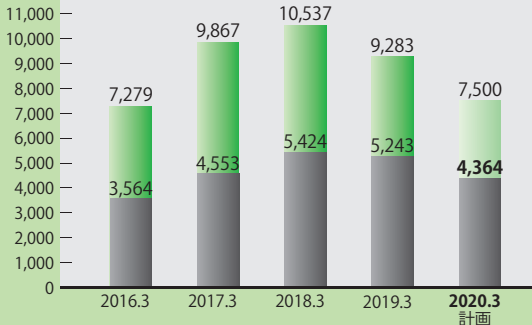
売上高 (単位: 百万円)

通期 第2四半期



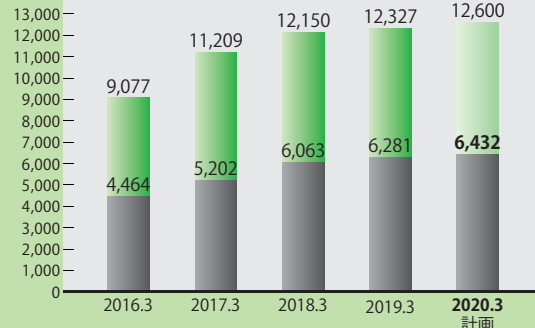
営業利益 (単位: 百万円)

通期 第2四半期



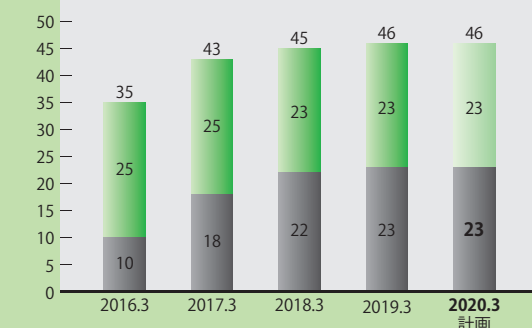
償却前営業利益 (単位: 百万円)

通期 第2四半期



配当の状況 (単位: 円)

期末配当 中間配当



第2四半期と通期における業績の推移

	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期(計画)
売上高 (百万円)	17,577	35,298	17,232	36,224	19,579	40,221	21,310	42,074	20,333	43,000
営業利益 (百万円)	3,564	7,279	4,553	9,867	5,424	10,537	5,243	9,283	4,364	7,500
経常利益 (百万円)	3,660	7,299	4,459	10,038	5,445	10,367	5,623	9,854	4,403	7,600
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	2,446	4,716	3,056	6,895	3,767	6,592	3,883	6,881	3,013	5,200
償却前営業利益 (百万円)	4,464	9,077	5,202	11,209	6,063	12,150	6,281	12,327	6,432	12,600
1株当たり当期純利益 (円)	77.64	143.76	86.08	194.22	106.11	185.67	109.38	193.81	84.87	146.46

株式の状況

(2019年9月30日現在)

●発行可能株式総数：95,000,000 株

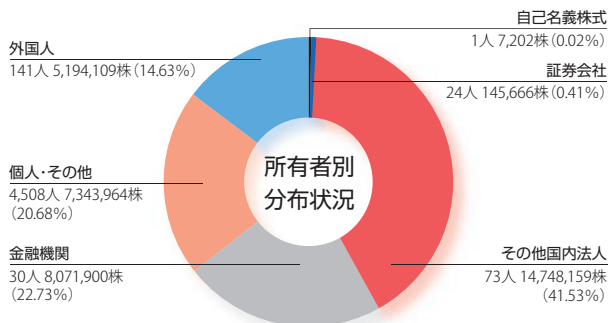
●発行済株式の総数：35,511,000 株

(自己株式が 7,202 株含まれています。)

●株主数：4,777 名

株主の分布

(2019年9月30日現在)



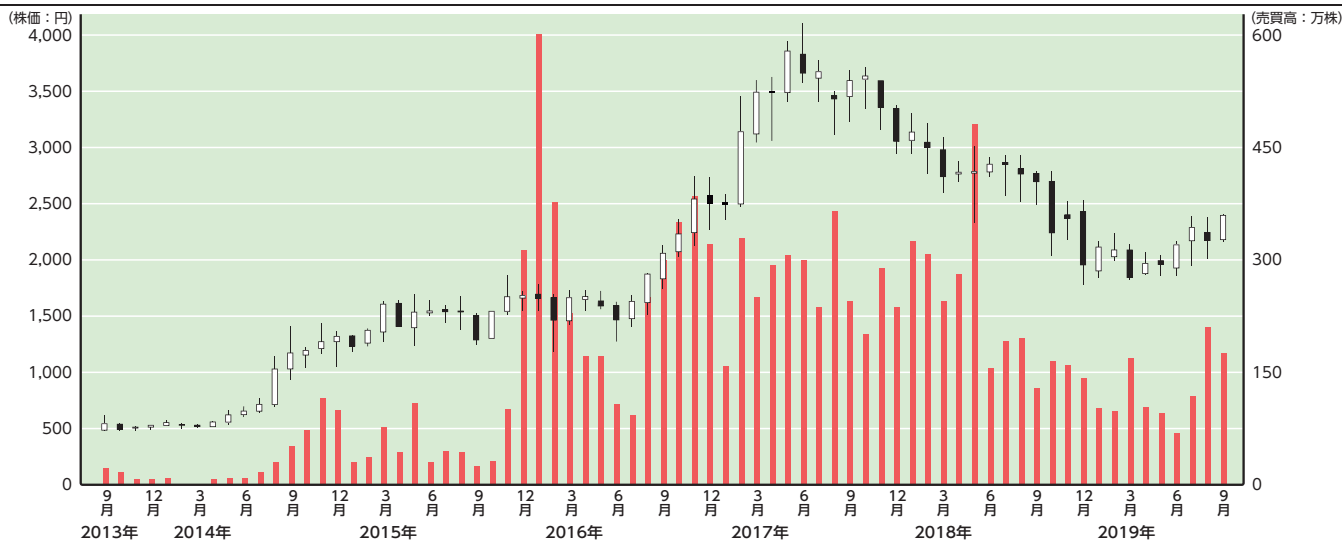
大株主

(2019年9月30日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社 壽世堂	5,596,265	15.76%
帝國製菓株式会社	3,328,000	9.37%
赤澤 庄三	3,085,965	8.69%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,624,900	7.39%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,783,300	5.02%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,500,625	4.23%
有限会社帝産	1,375,000	3.87%
株式会社日本触媒	1,186,500	3.34%
株式会社りそな銀行	792,500	2.23%
株式会社百十四銀行	754,700	2.13%

・持株比率は、自己株式数を控除して計算しています。

株価の推移※



※2014年10月1日付の株式分割(1:5)に伴い調整を行っています。



会社概要

会社概要

- 商号 扶桑化学工業株式会社
- 創業 1952年(昭和27年)
- 設立 1957年6月24日(昭和32年)
- 資本金 43億3,404万7,500円
- 本社 〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋四丁目3番10号
(日生伏見町ビル新館5階)
TEL.(06)6203-4771(代)
- 東京本社 東京都中央区日本橋小舟町6番6号(小倉ビル7階)
- 事業所 新大阪事業所 大阪府大阪市淀川区新高二丁目6番6号
京都事業所
京都第一工場 京都府福知山市長田野町一丁目5番地
京都第二工場 京都府福知山市長田野町二丁目8番地
鹿島事業所 茨城県神栖市東和田20番地
東京研究所 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号
(かながわサイエンスパークR&D棟 A206~A208)
大阪工場 大阪府堺市西区築港新町三丁目27番地10
十三工場 大阪府大阪市淀川区野中北二丁目10番30号
- 主要子会社(国内) 株式会社扶桑コーポレーション
- 主要子会社(海外) 青島扶桑精製加工有限公司(中国)
PMP Fermentation Products, Inc.(アメリカ)
FUSO (THAILAND) CO., LTD.(タイ)

役員

(2019年9月30日現在)

- 名誉会長および取締役
ファウンダー 名誉会長 赤澤 庄三
- 代表取締役会長 藤岡 実佐子
- 代表取締役社長 中野 佳信
- 常務取締役 政氏 晴生
(電子材料事業部長)
- 常務取締役 谷村 隆史
(ライフサイエンス事業部管掌 兼 企画開発室長)
- 取締役 梶本 源樹
(ライフサイエンス事業部長 兼 営業開発部長 兼 商品開発部長)
- 取締役 杉田 真一
(管理本部長 兼 イノベーション推進室管掌)
- 取締役 多田 智美(社外)
- 取締役 監査等委員 赤澤 敬敏(社外・常勤)
- 取締役 監査等委員 木下 善樹(社外・独立)
- 取締役 監査等委員 江黒 早耶香(社外・独立)
- 取締役 監査等委員 村上 敬司(社外・独立)
- 執行役員
執行役員 中司 哲浩
(株式会社扶桑コーポレーション 代表取締役社長)

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月末日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日
 - 定時株主総会 毎年3月31日
 - 期末配当金 毎年3月31日
 - 中間配当金 毎年9月30日
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

- 株主名簿管理人
事務取扱場所 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (電話照会先) ☎0120-782-031

(インターネットホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【株式に関する住所変更等の届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

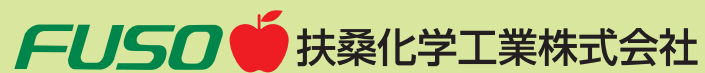
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しています。特別口座についてのご照会および住所変更等の届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

- 公告の方法 電子公告とする(<https://www.fusokk.co.jp/>)
- 上場金融商品取引所 東京証券取引所市場第一部

【利益配分に関する基本方針及び配当】

当社は、剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様へ報いるという基本方針のもと、企業体質の強化ならびに今後の事業展開を勘案して行うこととしております。内部留保金につきましては、将来の事業成長のための設備投資および研究開発に充当していきます。

当期の中間配当金につきましては、1株につき23円となります。期末配当金は1株当たり23円の予定で、当期の年間配当金につきましては、1株につき46円を予定しています。



<https://www.fusokk.co.jp>



VOC(揮発性有機化合物)成分フリーの
インキを使用して印刷しました。